

第7回「蕨の会」富岡製糸場と高崎城を巡るツアー（15年10月6日）

浅倉英樹（4組）

好天に恵まれた10月6日（火）、同期10名が高崎市在住の幹事、中山正光君（11組）が待つ上信電鉄高崎駅改札口前に集合した。メンバーは、初参加の岡田修君（11）、丸山暢久君（4）、のほか牧野泰晴君（1）、田村栄治君（1）、上原昇君（2）、関賢治君（2）、小宮山豊君（2）、神宮進君（10）、中山君と浅倉の計10名で、「蕨の会」会長の成澤文和君（4）は都合により途中参加になった。幹事さん用意のパンフレットを手に、富岡製糸場見学料がセットになった往復割引乗車券を購入し、旅がスタート。上田電鉄別所線を彷彿させるローカル電車に揺られ40分、上州富岡駅で下車した。

同駅から徒歩15分ほどで平成26年世界遺産に登録された富岡製糸場に到着した。

同製糸場は、明治5年、政府が日本の近代化のために最初に設置した洋式繰糸器械を備えた模範工場だ。平日の割にはかなり大勢の見学者。幹事のお勧めに従い、ボランティアによるガイドツアーに参加することにし、約30名のグループに分かれ、ガイドに導かれ見学ツアーが始まった。中山幹事が例の如く「一番可愛いガイドさんのツアーに！」なんて期待を持たせていたのに、現実には83歳の同製糸場OB男性ガイドに大当たり！ガイドさん長生きしてこられたので何か取り得は？と聞き耳をたてていると、聞こえてくるのは「私が・・・」「私の父が・・・」と昔の自慢話のオンパレード。結局、肝心の建物内への案内は皆無で、機械的に任務終了。仕方なく、たくさんの自動繰糸機が並ぶ繰糸所や展示された蚕とか繭を見て、12時過ぎに見学は一通り終了した。

ちょうどランチタイム。ランチは、イランの家庭料理が売り物で、店内にペルシャ絨毯も並ぶレストランに入る。まずはビールで喉を潤わせ、食事は、ライス、あるいはナン付きのシシケバランチ。富岡で何故イラン料理なのかは分からなかった。

次の目的地は、成澤君の待つ上州一ノ宮駅近くにある貫前（ぬきさき）神社。皆、この地は不案内。頼りは幹事の中山君。同神社の特徴は、入口から本堂が下方にあるまれな神社とこのことで、皆の脳裏には下りの石段がイメージされたまま、上州一ノ宮駅から徒歩数分の同神社前に到着。見上げてびっくり、入口からは急な登りの石畳が目の前に約150m。次いでこれまた急な石段が60段ほど。皆、「話が違ふぞ！」との共通の思いで石段を登り切ると、やっと幹事から聞いていた風景が目の前に。確かに本堂が下りの100段ほどの石段の先にあった。上州一ノ宮駅から11名は再び高崎駅に戻り、同駅改札を出たところで、高崎観光エスコート役、三澤憲一さんと合流。三澤さんは、中山君の日立在勤時の先輩で、小諸工場での勤務経験もあり、上田近辺、および高崎に明るく、数少ない高崎学博士の称号を認定授与されている方で、本日のガイド役を快くお引き受けいただいた。

高崎駅前から2時間の予定で高崎観光に出発する。高崎市は人口37万人で坂が少なく、自転車乗りに優しい街とのこと。高崎城方向に向かい、三澤博士のご丁寧なガイドにより、まず諏訪神社、次に高さ102.5mの市庁舎を訪れた。市庁舎では、21階の展望ロビーに上

がり、好天で、四方の山々や建造物のパノラマ的遠景を満喫した。次は、高崎城の二の丸周辺から城址公園巡りに。城内には、群馬交響楽団の練習場やコンサートホールもあり、民間払い下げ後、移築再建されたとの可愛いサイズの乾櫓や東門を見学した後、高崎駅に向かった。途中、兄の徳川家光との確執から高崎城での幽閉後、非業の自刃を強いられた徳川忠長のお墓がある浄土宗、大信寺も見学。高崎駅前で終始ご丁寧なガイドをしてくださった三澤さんにお礼し、今回のツアーは予定通り無事終了した。あとは、駅前の居酒屋「庄や」に移動し、打ち上げの飲み会。お刺身から、鮎姿焼き、寄せ鍋等を楽しみつつ、ツアーの様々な話題もおつまみに、ビール、お酒で乾いたのどを潤しながら 2 時間の歓談。成澤会長からは今後の「蕨の会」の予定につき説明があった。

締めめの卵雑炊を片付け、19 時半再会を楽しみに散会となった。（10 月 7 日記）

【写真説明】

- 1) 上州富岡駅前にて
- 2) 富岡製糸場工場風景
- 3) 貫前神社前にて
- 4) 高崎城址公園にて
- 5) 打ち上げの懇親会



写真1



写真 2



写真 3



写真 4



写真 5